

令和3年度 自立支援・重度化防止施策の目標・評価

タイトル	大間町の介護保険情勢
課題	
<p>全国平均、類似規模の自治体と比べるとショートステイの給付費が多い。原因の分析が必要。</p> <p>介護に関する知識、関心を持つ住民がほとんどいない。啓発が必要。</p>	
課題解決に向けた取り組み	
<ul style="list-style-type: none">・ ショートステイの給付費が高い原因の分析、解決方法の模索。・ 介護保険に関する啓発事業の実施。	
目標	
<ul style="list-style-type: none">・ 給付分析により原因の分析が完了。解決方法を遂行する。・ 住民に介護への関心を持ってもらい、住民主体サービスの創設等に繋げる。	
事業実績（令和3年度実施）	
<ul style="list-style-type: none">・ みえる化システムや認定調査結果等の活用による分析完了・ 介護保険に関する講演 開催数：0回（コロナ感染症により開催できず）	
実績評価（令和3年度実施）	
<p>自己評価 【○】</p> <p>当町ではグループホーム、特養が常に入所待機者で溢れている。また老健、有料、サ高住といった介護サービスが無いため、その代替サービスとしてショートステイが使われていることが分かった。（既存のサービスで代替しているのは他市町村でも見られる傾向である。）通いの場等の創設が必要である。</p> <p>納税組合総会や町内会の総会等に介護担当職員が来訪し、介護保険に関する説明会を行う計画であったがコロナ感染症により総会等が開催されないため説明会を行うことができなかった。</p> <p>令和3年度は要支援の認定者数が増えており、重症化する前の状態から介護予防サービスを受けている人が増えてきていると感じる。</p>	